

能美市商工会とのタウンミーティング

日 時 令和4年12月23日(金) 16時30分～17時30分

会 場 寺井地区公民館 大ホール

参加人数 21人

1) 開会

2) 能美市商工会局長ご挨拶

・本日は「インクルーシブのみ」という演題で市長に講演いただく。インクルーシブとは、仲間外れにしない、みんな一緒にです。地域共生社会を目指す能美市の今後の取り組みをお話しいただけるのでないかと思っている。

2) 市長 市政報告

○8月4日の大雨について

・市内の多くの場所で冠水し、七ツ滝や鑪水観音、蟹淵などの史跡名勝では土石流が発生し大きな被害が出た。鑪水観音では土砂が全部除去されて、今日から水を供給することができた。クリスマスやお正月に間に合うよう何とか供給できた。

・市内では鍋谷川側付近が一番被害が大きかったが、西川沿岸の福島町でも内水被害が発生した。大きな河川の周りだけでなく内水路もオーバーフローして溢水をした。

・床上床下浸水の合計が120件を超え、土砂が流入をした農地が12ヘクタール、冠水した農地が20ヘクタール、そして頭首工が15ヶ所全部壊れた。また猪の柵が約1キロにわたり壊れ、住宅だけでなく、農地や観光名所も大きな被害をうけた。

・2018年にも避難指示を発令しているが、その時は大雨警報から土砂災害警戒情報が出されるまで5時間程度あった。今回は大雨警報の50分後に土砂災害警戒情報が発表された。8月20日は20分後に土砂災害警戒情報がされている。

・8月4日の朝4時から5時の間に86mという過去経験したことのない雨が降った。

・当日の5時8分に土砂災害警戒情報が発表され、5時40分ぐらいに自家用車で現地を確認しに行くと既に川が氾濫をしていた。6時30分に、部長以上を集めた緊急の会議を招集

し、6時40分に鍋谷町と寺畠町に避難指示を発令をし、和気小学校に避難所を開設をした。雨が断続的に続き、午後からも引き続き雨が強くなるという予報を受け市内全域に自主避難所を開設した。夕方になり下水道が雨水の流入で流れにくくなり下水道の利用制限のお願いをした。

・8月5日以降には緊急の罹災証明などの手続きがワンストップで対応できる窓口を設置した。過去経験したことのない雨に見舞われたため、過去経験したことのない対応を求められた。床上床下浸水したご家庭から水を排出するポンプや、冠水した住宅を消毒するためのポンプも必要だったが1台も持っていなかった。そういったものを確保するのに、県の色々なところを回り確保した。

・多くのボランティアの申し出がありボランティアセンターを設置し、災害ごみの臨時集積所も開設した。二次災害が起きないように、被害の調査も行い、国や県に復旧・災害対策の要望をし、馳知事や岡田大臣にも能美市にきていただいた。被災された地域数箇所でも今後の対応についての説明会も行った。過去経験したことのない大雨を教訓に、9月の議会で5億9300万、12月議会で2900万円の予算を可決していただいた。

・色々なことが教訓になったが、もう一度災害対策の見直しをしなければならない。今回は50年に一度の大雨と言われる量だった。それに対応できるように、また二度と同じような水害が起きないように対策をとっていかなければならない。すぐに出来ることはすぐ、時間がかかることは前倒しで実行していくことを今、順次行っていきます。

・我々市の職員だけでは限界があることもわかった。避難所を市内に数ヶ所設けたが、行くまでに時間がかかる、あるいは道路が冠水をしてしまい行けないという声もあり、町会・町内会長さんが自主的に公民館を一時避難所として開設していただいたところもあった。土嚢を作って、水がこないよう対策されたな町会町内会もあった。今後は市民の皆さんと市役所全体で水害や自然災害に対応できる体制をとっていかなくてはならないと改めて思った。

○新型コロナウイルス感染症

・最近も大変多くの方が感染し、先日には2000人を超える感染が出た日もあった。なかなか収束を見ないなか、感染に対して現在最大の効果があると言われてるのがワクチン接種です。今は5回対象の方に順次接種券を送付をしている。今はオミクロン株対応のワクチンとなっているので、希望される方は申し込んでいただければと思う。

○2022年を振り返って

・今年は3年ぶりというキーワードで、多くのイベントが開催をされた。5月の九谷茶碗まつり、7月の根上七夕まつり、8月の辰口じょんからまつりや秋の茶碗まつり、古墳まつりと開催され商工会の皆様にも大変ご協力いただいた。

・今年は大雨災害もあったことから、義援金や寄付金を多くいただき、災害対策等の連携協定も多く結ばせていただいた。

・新聞社から令和4年を漢字一文字でと言われて、「備」という字をイメージした。備えあれば憂いなしということから、新型コロナウイルスのワクチン接種を進める。北陸新幹線県内全線開業、来年は加賀立国1200年、いしかわ百万石文化祭という千載一遇のチャンスでありそれに向かい備えるとした。

・業誘致も大変好調であった。雇用の場が広がるだけでなく、市の財政にとっても大きなプラスとなる。社員の方が市内の既存の企業から流出しないようにしなければならない。

・能美応援特典券が好評であった。1月には初めて応援イート券というコロナ禍で一番苦しんでいる飲食店だけしか使えない券を出した。現在の第5弾では初めて市内の大手スーパーで使える券とした。これまでは市内のお店と家計を助けるという意味合いだったが、第5弾は物価高騰もあり家計対策を強化し市内の大手のスーパーでも使える設定とさせていただいた。広報10月号には施設無料券をつけた。感染症がひろがっているが家に閉じこもっていたらストレスもたまる、また市内の施設をいろいろ巡って欲しいという思いから実施した。

○市の課題について

・現在人口が減っている。もう一つ課題になってきているのは、一人暮らしの世帯が増えてきている。人口を増やすには、社会増と自然増がある。引っ越していく人よりも引っ越して来る人が多いと社会増。生まれてくる人が亡くなる人よりも多いと自然増。自然増と社会増のために子育てと住環境の充実、自然増のために健康寿命の延伸に取り組んでいる。

・災害や事件事故を減らしていくことも課題である。また能美市は外国人の住民数、人口当たりの比率が県内ナンバーワンです。そのため多言語対応も課題となっている。市の窓口では、タブレットで同時翻訳をして手続きをしている。

・先ほど申し上げた企業誘致が好調のため人材確保をどうするか。感染症対策として、非接触型でネットを使って市役所のサービスを提供できないか。3町が合併して能美市が誕生してまもなく18年になる。公共施設、インフラ、学舎が老朽化している。特に学舎は、市内に11の小中学校があるが築50年以上が35%を占めており、どう耐震化、建て替えをしていくかが大きな課題となってきている。

○インクルーシブシティ

・デジタルの力を使ってどの様にインクルーシブシティを目指していくかをご説明させていただく。能美市は、デジタル田園都市国家構想推進交付金を採択することができた。これはデジタル技術を導入して、市民の利便性を高めたり安全安心のまちにしていく。また、事業者さんにも色々な恩恵ができるようにしていこう、とデジタル田園都市国家構想の一端を能美市も担って進めている。

・一人暮らしの市民が多くなってきている。一人暮らしの方が具合が悪くなり、近所の方が救急車を呼んだとする。救急車が来ると救急隊の人は、患者さんの病気の罹患歴や服用して

いる薬や、連絡先などを把握して病院に連れて行かなければならない。ただ本人は具合が悪いので確認できない。今やろうとしているのは、この人が持っている情報をデータベースに保存しておき、必要なときに必要な情報を取り出せるようにしよう。というのが能美市が今とりくんでいる医療介護DXという取り組みです。

- ・緊急時救急時だけではなく、普段からも例えばケアマネさんにも共有してタブレットで見れるようにする、またタブレットに情報を入力できるようにする等々を今取り組みを始めている。

- ・デジタル公民館というキーワードがあります。公民館でいろんなお医者さんの診察を受けられる、薬をもらえるようにする。子どもたちが公民館でeスポーツを楽しんだり、Web会議ができる場所にしたりできるようにするのが、デジタル公民館という事業、今後取り組んでいく。

- ・胎児期から保育園、小学校中学校と病気になった時に、お医者さんが変わるとカルテも変わるので、病歴を全部一気通貫で見れない課題がある。そんな情報を一元管理をして必要なときにその情報を得られるようにしたい。予防接種を受ける時の予診票をスマートフォンで書いて送れるようになど身近なことから、デジタルの力を使って、簡単にそれからスピーディーにしようというのが育てDXです。

- ・防災行政無線を多重化します。スマートフォンに文字情報で流したり、受信機を最新のものに変えたり、固定電話でも確認できるようにします。屋外スピーカーも新しいものに変え、ケーブルテレビやホームページでも発信し、いつでもどこでも誰でも聞ける体制を整えます。危機管理の情報だけでなく、生活に必要な情報、観光の情報、その他いろんな情報を流すようにしていき、トップページからワンクリックかツークリックで必要な情報を取れるようにしていく。

- ・コドモンというアプリで保育園の出欠確認をしたり、保護者への連絡をしたりしている。道路の改修なども、今までは電話等で伝えていただいたがスマートフォンで写真を送ってもらうアプリを導入した。ゴミ出しの曜日を知らせてくれるアプリや、のみバスのルートや到着時刻、込み具合が確認できるのみバスGoというソフトもある。

- ・電子通貨の導入は能美市としてもサポートしていきたい。先行事例などを見ると、多くの場所、場面で使える汎用性があるものがあると思う。先行自治体を参考に検討していきたい。

- ・農村DXということで農業にもデジタル技術を導入できないか。学校ではGIGAスクール構想として能美市の小学生中学生は全員タブレットで授業を受けている。全教室に電子黒板を導入もしている。また、感染症の影響や、怪我や多忙で直接いけない方の為に電子図書館を導入した。防災減災にも色々な機器を取り入れ、電動ストレッチャーの付いた最新の救急車を導入した。市役所ではペーパーレス、Web会議を積極的に取り入れていこうとしている。

- ・人材確保にもデジタル技術を活用している。市内企業の魅力を伝えるために「現場ヒーローズ」という、市内で仕事をされている方を紹介する動画を作成している。能美市就活情報

LINEで東京等の学生さんに登録をしてもらい、能美市の会社や仕事を伝える、リクのみというアカウントで発信している。能美市大図鑑というホームページで、飲食店や観光情報等を紹介している。その中の一つに「能美の取り柄」というもの作り企業を紹介しているページがある。ニッチトップや優れた技術を持ってらっしゃる会社を紹介して、能美市の企業や事業所、お店に来てもらえるようにしている。

・デジタル技術ばかりではインクルーシブなまちは作れない。やはり人の力も必要です。最近複合世帯といい、一つの家庭でいろんな悩みを持っていることが増えてきている。こういった世帯に対してフォローできるチームを作り、ワンストップで対応できるようにしている。それぞれ専門的な知識を持った職員や有識者が集まり、相談し対応するようにしている。

○2022年・2023年の取り組みについて

・SDGSのパートナーシップ制度を作り、カーボンニュートラルにも取り組んでいる。のみバスの見直しももう一度行っていく。東京オリンピックの表彰台を頂くことができた。イベントで活用していきたい。物見山陸上競技場もメンテナンスをした。アクセスの良い山口町に合奏墓を建設した。

・ふるさと歴史の広場を大きくリニューアルをしている。北陸新幹線県内全線開業に向けて整備をしていく。企業誘致が好調であるので、併せて宅地の造成も行っていく。アセットマネジメントとして、学者や水道管などのインフラ、案内看板等も直していきたいが、数が多く費用もかかるので順番に進めていきたい。市制20周年を迎える2025年までに、ウォーキングや通学に利用いただいている健康ロードを整備していく。

○おわりに

・市民ファーストの理念から今年も多くタウンミーティングをした。感染症の影響で少人数で話せる「市長と能ん美りカフェトーク」も今年から開催した。市民の皆さんと直接意見交換をさせていただいたり、市政のことをお伝えする機会を来年もしっかり持ちたい。

・現地現場主義ということで色々なところに行き、土日にはパトロールを兼ねてウォーキングを楽しんでいる。

3) 閉会